

# 新規参入で本格的な有機トマト栽培に挑戦

(当麻町 河島 峰樹 氏)

## 1 経営の概要

- (1)有機栽培経験年数 2年 (H20 新規参入)
- (2)経営規模 253a (全面積有機栽培)
- (3)労働力 2名
- (4)作物別作付面積(平成21年)

(a)

品目	栽培面積	有機栽培面積
トマト	32	32
牧草	200	200



写真1 河島 峰樹 氏

## 2 有機農業取組の経緯等

- (1)有機農業の取組動機
  - ・安全・安心な農産物、環境負荷の少ない農産物を生産したい。
  - ・有機農産物を作付けすることにより付加価値をつけて販売したい。
  - ・取引先への信頼性を継続的に確保したい。
- (2)取組経過
  - ・平成20年に町内の有機農業者で実習後、農業委員会の斡旋により土地を購入し新規参入した。
  - ・平成20年からトマトを10a作付けし順調であった(収量:10t/10a)ことから、平成21年にハウスを増築しトマトを32a作付けした。
- (3)有機JAS認定の取得
  - ・平成19年に土地を取得しており、平成21年作付前で有機的管理を2年経過したのでトマト作付けほ場すべてについて、平成21年にJAS有機認定を取得した。
- (4)消費者へのメッセージ
  - ・北海道の自然に憧れ東京でのサラリーマン生活を辞めて有機農業に挑戦しています。自然と調和しながら安全・安心な野菜を作っています。

## 3 有機栽培管理技術等の特徴

[有機栽培管理の概要]

- (1)トマト栽培管理の概要
  - ・品種:マイロック(サカタのタネ)
  - ・仕立て方法:4本仕立て
- (2)トマト栽培の作業体系

作業	播種	鉢上げ	定植	収穫始	収穫終
時期	1/20	2/10	4/15	7/10	10/31
備考	他生産者へ委託	断根			

[栽培管理技術のポイント、工夫]

(1)土づくり

- ・堆肥（兼肥料）一購入（フレコンバック）  
原材料：牛糞、ヒトデ、貝等  
投入量：500kg/10a
- ・肥料  
ペレット鶏糞、天然硫酸苦土肥料、  
液肥
- ・施肥方法  
基肥：全層（バット肩に鶏糞）  
追肥：通路（鶏糞、天然硫酸苦土肥料）
- ・投入量  
全層：窒素 10kg 弱/10a  
追肥：（通路） 3kg/10a、  
（液肥） 15kg/10a



写真2 河島氏のトマトハウス

(2)病虫害防除

- ・問題となる病害：トマト疫病
- ・問題となる害虫：現在のところ無い
- ・防除  
病害が発生した場合は、罹病葉を摘除している。  
JAS有機で使用可能な茎葉散布剤も使用し  
ていない。

(3)雑草対策

- ・通路に防草シートを被覆
- ・手取り除草の実施



写真3 ふるさと食のフォーラム

4 生産物の出荷・販売

- ・有機JAS格付け実績：トマト全量
- ・販売先：農業生産法人 当麻グリーンライフ  
徐々に販売先を増加したい
- ・販売方法：生食用は 4kg 箱、他ジュース向けに使用

5 消費者との交流の取組み

- ・当麻町有機農業推進協議会主催の「ふるさと食のフォーラム」にパネラーとして参加（写真3、写真4）。
- ・当麻町有機農業推進協議会会員として、有機収穫祭直売会に参加（写真5、写真6）。



写真4 パネラーを務める河島



○当麻町有機農業推進協議会の「有機収穫祭」



写真5 受付を行う河島氏



写真6 陳列される有機野菜

## 6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

町内の生産者組織に積極的に参加している。

- ・「当麻町有機農業推進協議会」会員
- ・「当麻町有機農業を考える会」会員（写真7、写真8、写真9、写真10）

○「当麻町有機農業を考える会」の行事に参加する河島氏



写真7 トマトの現地ほ場視察



写真8 有機トマト食味調査



写真9 有機ブルーベリーほ場視察



写真10 有機たまねぎほ場視察

## 7 今後の課題と方向

### (1) 今後の課題と取組の方向

- ・ほ場内の石礫が作業の妨げとなるためストーンクラッシャーによる石礫対策を行いたい。
- ・今後、当麻町有機農業者による直売所の設立等を考えたい。

### (2) 新たに有機農業に取り組もうとする人へのアドバイス

- ・新規で有機農業を希望している人には融資の認可等で困難なこともあるが、それを乗り越えてどんどん参入してもらいたい。

〈作成：上川農業改良普及センター〉